



8月15日(水)、太櫓小学校体育館において「太櫓小学校海浜留学十周年記念式典」が開催され、これまでの留学生・保護者・里親・地域の方・旧職員関係者など約140名が参列しました。

式典では、村上校長から「発足の当時の児童の募集活動は並大抵の苦労ではなかっただろうと推察されます。関係者や地域の皆様のご努力が今につながっていると思います。」と式辞がありました。

式典後の思い出を語る会では、在校生のヨサコイ披露の後、旧職員・現職員、地元生・保護者、留学生・保護者や里親が、「20周年目指して頑張って欲しい」「この海浜留学で自分を見つけることができ良かった」など思い出や近況を報告しました。

◎太櫓小学校は、北檜山区では一番古い明治16年開校。かつてはニシン漁で栄えましたが、その後のニシン漁の不振、海難事故、集中豪雨などで人口が激減。平成5年の北海道南西沖地震により太櫓地区の人口はさらに半分になり、太櫓小学校は存続の危機を向かえました。「学校は地域の文化」と太櫓小学校の存続について地域ぐるみで検討を重ね、平成8年「海浜留学推進協議会」を発足。平成9年4月には念願の「海浜留学」をスタートしました。当時は留学生1人からのスタートで、留学生集めに奔走する毎日だったそうです。現在では、留学生は延べ150人以上となり里親制での海浜留学児童数は、山村留学も含めて全国1位となりました。

編集後記

▼表紙の写真は、食べっぷりが良いと評判の北檜山小学校2年生の給食シーンです。やらせなしの自然な「いただきます」です。▼今回は、収穫の秋にちなみ食に視点をあてた「地産地消」を特集してみました。予算や財政問題以外では、初めての特集ということで、じっくり読んでもらう内容にしたい反面、文字数はできるだけ少なくという要望も頭をよぎり、今回はこのような形になりました。せたな町での地産地消の取り組みでご紹介した関係者の皆さんには、忙しい中、快く取材にご協力頂き本当にありがとうございました。これからもたくさん地元での活動や、皆さんのコメントなどを紹介しながら、せたなの元気が魅力を発信していきたいと思っておりますので、ご協力ください。▼今年はお水仙まつりに始まり、雨まつりが多いようです。事比羅神社例大祭と真駒内神社例大祭も見事な大雨が降りました。真駒内神社例大祭では、幸い気温が高めだったので、ずぶ濡れを染しみながら盛り上がり、終わった後はなぜか、清められたような爽快感がありました。▼今回から、町へ頂いた寄附について掲載することになりました。直接町に頂いたもののみ掲載していきますので、ご理解ください。すようお願いします。(乾)